

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	平成25年第5回武蔵村山市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成25年2月25日（月）午後2時00分～4時00分
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：野田浩二、諸江大、池田まさ子、菊地茂、牧一彦 小野吉雄、西田勇、吉澤幹郎、吉田邦子 欠席者：菅原典子 事務局：環境課長、環境課主査（ごみ対策グループ） 環境課主任（ごみ対策グループ） 環境課主事（ごみ対策グループ）
議 題	1 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画の改訂について 2 その他
結 論	議題1について 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画第5章の改定案についての説明を行う。 第4回廃棄物減量等推進審議会に引き続き、目標達成するために必要な施策について議論する。 議題2について なし
○事務局等 ●委員	○ 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画第5章の改定案についての説明を行う。3市共同資源化事業の経緯、進捗状況について説明を行う。 ● 家庭ごみ有料化を実施して、他市では成果が出ているのか。 ○ 西東京市に直接、話を聞いてきたが、実施により、住民のごみに対する意識が高まり、ごみの減量の効果が出ているとのことであった。西東京市では家庭ごみ有料化を行う前の平成19年度の排出物量原単位が776.4g、有料化を行った後の平成20年度の排出物量原単位が704.6gであり、減量に成功している。 ● 家庭ごみ有料化を実施すると、お金を出しているから、ごみをいくら出しても大丈夫であるという考えを持つ市民が出るだろうから、家庭ごみ有料化を行う前に市民の意識を高める施策を行うべきである。 ● 武蔵村山市は、生ごみ堆肥化の検証、容器包装プラスチックと

ペットボトルの資源化については3市共同で行う検討をしている等、行うべき施策を行っている。他市では、ほとんどが家庭ごみ有料化を実施している。既に家庭ごみ有料化に向けて動くべきタイミングが来ているのではないか。

- どのくらいのごみの減量が達成できなければ、家庭ごみ有料化を行わなければならないのか。地区別に出たごみ量を比較することは可能なのか。

一定の目標値を定めて、その目標値を達成できなかった場合は、家庭ごみの有料を行うという呼びかけを行い、減量を促してみるのが良いのではないか。

- 一定の目標値については、この一般廃棄物処理基本計画で定めた目標値になると考えている。武蔵村山市では、毎年、排出物量原単位が下がってきているのだが、多摩地区の自治体の中での順位については、下がってきてしまっている。周りの自治体が武蔵村山市よりさらにごみ減量に成功している状況である。この状況からすると、やはり家庭ごみ有料化について考えていく必要がある。

- ごみ減量の啓発がまだ行き渡っていない部分もあるのではないか。地域でこのような切実な話をしていくことも重要である。今より市民の方々が努力して、ごみを減らしていけば、家庭ごみの有料化をしなくて済むというかたちで啓発するのも大事なのではないか。

- ごみ減量の方法として、市が古新聞、古雑誌の収集をしないのはどうだろうか。集団回収や新聞社回収を利用してもらえば良い。

住宅にコンポストの設置を促す条例等をつくるのも良いのではないか。

- この廃棄物減量等推進審議会は、平成29年までの計画なので、ここで決めた内容は、5年後の審議会まで変えることはできないのか。

- 社会の大きな変化があり、計画を見直さなければならない状況、例えば、東大和市や小平市が家庭ごみ有料化を実施することとなった等になれば、また廃棄物減量等推進審議会をその際に関く必要があると考えている。

- 大型の生ごみ処理機を地区に置くことは、できないのか。

- 事業説明して、予算等が得られれば可能である。

- 戸別収集を行えば、ごみの排出者が明確になり、ごみの量もそ

それぞれ分かるため、ごみの排出者の意識改革につながるのではないか。

2年後、3年後、家庭ごみ有料化を行うのは急かもしれないが、5年後くらいの実施に向けて、動き始めれば、家庭ごみ有料化実施は可能ではないか。

一步踏み込んで、1年後に家庭ごみ有料化検討会を開く等、具体的に計画に載せていくべきではないか。

○ 平成24年度のごみ排出量は、現時点で、かなり増えてきている。これまで減少し続けていた市民一人一日当たりのごみ量が、現在のペースだと、平成19年度の実績と同様の結果になる見込みである。

● 村山団地の建て替え等があると、ごみ量は増える傾向があるが、やはり、ごみの量を減らす必要である状況である。

● 市役所のごみはどう減量しているのか。

○ 他の事業所と同じく、ごみをしっかり分別して出している。総務課で地球温暖化対策等のために、紙の両面利用等、ごみ減量を庁内に働きかけている。

● 市役所のごみの量がどれくらい減ったか等、統計を取るのも良いのではないか。

○ 啓発として市役所のごみの量を把握する必要がある。

● 家庭ごみ有料化の実施時期を決めていく必要があるのではないか。ごみ減量の啓発をしながら、進めていく必要がある。武蔵野市を見に行ってきたが、家庭ごみ有料化を実施して、確かにごみ減量に成功していた。

有料化に実施に向けて、行動に移した場合、どれくらい期間が必要なのか。

○ 家庭ごみの有料化の説明の納得が得られれば、新たな施設が必要という訳ではないので早い段階で、できるのではないか。ただ他市の例で言うと、100回、200回とかなりの数の説明会を行っている。

家庭ごみの有料化の検討を具体的に計画に載せるべきか、文言を従来どおりで策定するかを決める必要がある。

● 家庭ごみ有料化の検討を具体的に計画に載せるべきであるが、計画で決めた目標値を達成できなければ、家庭ごみ有料化を実施するというのは、どうだろうか。

例えば、平成27年度の実績を見て、計画の年度ごとの目標を

達成していない場合、家庭ごみ有料化を実施するのはどうだろうか。少なくとも2年間程度は家庭ごみ有料化を行う前に市民がごみ減量の努力をする期間を設けたほうが良い。

また目標値の設定として、市民に知らせるのは、排出物原単位なのか、収集ごみ量原単位なのか。

- 今までは主に排出物原単位を広報等している。
- 今回は、家庭ごみ有料化実施すべきどうかでの目標値設定なので事業所の持込ごみを含まない家庭ごみが主である収集ごみ量原単位で設定すべきではないか。
- 確かに収集ごみ量原単位のほうが、考えとして適当である。
この回の結論としては、目標値を定めて、それを市民が達成できなければ、家庭ごみ有料化を行うという記載をすることである。
具体的な目標設定は次回行うこととする。

次回開催日は、4月19日（金）午後2時から開催することと決定する。